日本小動物獣医学会会誌

原　著

活性化リンパ球療法を実施した腫瘍罹患犬10例

星野有希[1)]　高木　哲[1)]　大崎智弘[2)]　奥村正裕[1)†]　藤永　徹[1)]

1）北海道大学大学院獣医学研究科（〒060-0818　札幌市北区北18条西9丁目）
2）北海道大学附属動物病院（〒060-0818　札幌市北区北18条西9丁目）

（2008年2月12日受付・2008年10月9日受理）

要　　約

悪性腫瘍罹患犬10症例に対して活性化リンパ球療法を実施した．症例犬より採取した末梢血単核球を抗CD3抗体およびヒトリコンビナントILh2を用いて14日間培養後，ヒトリコンビナントIFNhαを感作した細胞を活性化リンパ球とし，当該症例に複数回投与した．その結果，すべての症例で末梢血単核球細胞の構成細胞比が変化し，うち2症例で血清IFNhγ濃度の上昇が認められた．また活性化リンパ球の投与による副作用は認められず，症例の生活の質を十分維持することが可能であった．以上のことから，本治療法は腫瘍の発症およびその治療により生活の質が低下しがちな犬に対しても免疫応答を活性化することが可能であり，腫瘍の成長および転移に対する免疫学的防御能を活性化させる治療法として十分適用可能であると考えられた．
――キーワード：活性化リンパ球，抗CD3抗体，犬，ILh2.
日獣会誌　62，383～387（2009）

†　連絡責任者：奥村正裕（北海道大学大学院獣医学研究科獣医外科学教室）
〒060-0818　札幌市北区北18条西9丁目　☎・FAX011-706-5229　E-mail：okumuram@vetmed.hokudai.ac.jp